

お手入れのしやすさにこだわりました。日頃のお手入れは水洗い、もしくはシャンプー洗車で十分です。
撥水効果が低減しても、その下の無機ガラス被膜がしっかりと愛車をガードします。

FAQ of GAKON ～よくある質問と答え～

- 商品の特徴
 - Q1: 他社のガラス系コーティングとどこが違うのですか？
 - Q2: 我魂は撥水性ですか？それとも親水性ですか？
 - Q3: 撥水性コーティングの注意点を教えてください。
- 施工について
 - Q4: 施工する前に、しておいた方がよいことはありますか？
 - Q5: 車の塗装面以外にも施工することができますか？
 - Q6: 1台にどれくらい使用するのが適量ですか？
- 施工後のメンテナンス
 - Q7: 施工直後の注意点はありますか？
 - Q8: 日頃のお手入れはどのようにしたらいいですか？
 - Q9: 雨ジミが付いた場合はどのようにすれはよいですか？
- その他
 - Q10: コーティングの保証はしてもらえますか？
 - Q11: コーティング剤の保管期限はどれくらいですか？
 - Q12: コーティングの保管方法での注意事項は？

Q1:他社ガラス系コーティングとどこが違うのですか？

A1: 『我魂』は有機樹脂及び揮発性有機化合物(VOC)を使用せず、オルガノポリシロキサンを主成分をした無溶剤・無機質塗料から開発されています。従来の有機結合よりも強い無機結合により緻密で強靱不活性の被膜を形成します。そのため、耐熱性で紫外線、光エネルギー波長での材質変化は起こりにくく、耐酸性がある高い耐久性を実現します。ガラス系コーティングは、濃色車の施工でムラになる。複数の液剤が必要になる。専用の機器が必要になる。初期導入にお金がかかる等のイメージがありました。これらの問題を解決し、高品質でありながらも価格を抑え、特殊な器具を必要とせず、かつ簡単な施工方法を実現し、ご提供することを可能としました。また、VOCフリーのため、室内での作業も安全に行え、施工面に対しても安全です。ですから、自動車のボディだけでなく、室内で使用するものにも施工することができます。

Q2:我魂は撥水性ですか？それとも親水性ですか？

A2: ユーザーニーズの高さから撥水タイプのコーティング剤です。その後、撥水効果が弱くなってもガラス質の保護被膜は施工後から約2~3年維持します。(洗車、保管状態、走行条件により持続期間は変わります)その間はガラスと同じ水の切れ方になりますが、施工面を保護する効果は継続し、重量感のある光沢も維持します。Q8を参照下さい。

Q3:撥水性コーティングの注意点を教えてください。

A3: どのタイプのコーティングにも長所と短所があります。一般的に水が掛かった時、水滴が球状になるのが撥水(疎水)タイプ、ベターと水の膜を張るのが親水タイプです。この2つのタイプの長所と短所は、ほぼ逆の関係になります。撥水タイプで優れている点は、何と言っても濡れた時の水玉の視覚効果が高い点砂埃などが水洗いで簡単に洗い流せる点、拭き上げがしやすい点です。逆に撥水タイプの劣っている点は、濡れた時に水玉になることから、雨ジミ(イオンデポジット)がつきやすくなる点です。雨ジミは頑固なものになると取れにくくなりますので、まずは濡れたら長時間放置せずに、水分を拭き上げることでより予防してあげることが第一です。これは、従来から身近にあるワックスやガソリンスタンドなどで行っている撥水洗車後の注意事項と同じです。雨ジミについては、施工後お手入れ FAQも参考にして下さい。

Q4:施工する前にしておいた方がよいことはありますか？

A4: 本剤には水アカ等の汚れを落とす成分やコンパウンド類は入っておりません。施工面が汚れている状態でコーティングしますと、汚れを包み込んでしまい、後からその汚れを落とすのが大変になります。汚れた状態ではコーティングの密着性など性能が十分に発揮できなくなりますので、ボディの状態により予め鉄粉除去や水アカを落とし、コンパウンドなどで施工面を整えてから使用して下さい。

Q5:車の塗装面以外にも施工することができますか？

A5: ガラス及び、ゴム以外の部分は可能です。(バンパーや樹脂パネル部も可能)
ゴムに向かないのは、材質が伸び縮みするため硬質なコーティングは定着しないためです。また、ガラスにガラス質のコーティングをする必要がないため、一般的にはガラスとゴム以外の部分が施工対象となります。また、通常は少量の水を霧吹きで掛けながら施工しますが(ウエット施工)、硬膜を高めた方が良い部分、例えばホイールやヘッドライト、テールライトなどは乾燥した状態で塗り込んで拭き上げる施工(ドライ施工)が、適しています。ドライ施工の場合は、ウエット施工の約倍の反応時間(放置時間・水禁止)を取ってください。

Q6:1台にどれくらい使用するのが適量ですか？

A6: 普通乗用車で約6~7cc、大型ワンボックス車で9~10ccです。初めはスポンジに染み込む分、多めに使用しますが、その後は水の弾き具合を確認しながら塗布していくと効率よく施工することができます。ベテランの方は、10ccで十分施工することができます。アルミホイールも施工しての容量です。

Q7:施工直後の注意点はありますか？

A7: 施工後、12時間は水を掛けないで下さい。万が一、雨などで濡れた場合は、雨の当たらない場所へ移動し、水洗いで泥などを落とした後、柔らかいクロス等で水分を拭き取ってください。施工面が十分に強度のあるガラス質被膜を形成するには、1~2週間程度かかります。施工後、1~2週間はできるだけ洗車を控えてください。雨天走行後は、なるべく早く汚れを洗い流し、乾拭きを行ってください。

Q8:日頃のお手入れはどのようにしたらよいのですか？

A8: 普段は汚れたら水洗い、または中性タイプのシャンプー洗車をすれば十分です。コーティングにダメージを与えずに汚れを落とすにはマイエターナル 塗面光沢復元剤をご使用下さい。また、撥水効果を補強したいときは付属の「メンテナンス剤」をご使用ください。市販のケミカル類を使用する場合は、中性、ノーコンパウンド商品の選択をお願い致します。

Q9:雨ジミが付いた場合はどうすればいいのですか？

A9: 雨ジミは、洗車後や雨の後に水分が乾燥し、塗装表面に固着した水洗いでは落ちない汚れの総称でイオンデポジットとも呼ばれています。雨ジミがついたら「マイエターナル塗面光沢復元剤」もしくは市販のクリーナーを使用してお取り下さい。まずは、雨ジミが固着しないように、洗車後や雨の後は水滴を塗装面に残さないように吹き上げて予防することをお勧めします。

Q10:コーティングの保証はしてもらえますか？

A10: 本施工単体での保証期間は設けておりません。それは、個々のお客様の異なる洗車・保管状況・走行条件等の使用条件で、統一した保証期間を設けることは現実的に困難だからです。美装整備システムとして、定期的メンテナンスの施工を実施すれば、車検時での再施工で十分です。

Q11: コーティング剤の保管期間はどれくらいですか？

A11: 保管方法に従って正しく保管していただいた場合は、最長で1年間は使用することができますがなるべく早め(6ヶ月以内の使いきりを目安)にご使用下さい。

Q12: コーティング剤の保管方法での注意事項は？

A12: 保管方法は、まずはしっかりと密栓してください。空気中の水分と反応して硬化していきますので密栓が不完全ですと、容器の中で硬化してしまいます。
高温、低温、多湿をさけ、5℃～40℃の室温で保管してください。
5℃以下で白濁する液性ですが、緩やかに温めると透明に戻ります。
また、急激な温度変化を避け、冷蔵庫での保管はお止めください。